

各関係機関の長 殿

国立感染症研究所長
(公印省略)

研究職員の公募について (依頼)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度当所では下記のとおり研究職員を募集することになりました。
つきましては、貴下職員にご周知下さるようお願い申し上げます。

記

1. 職名等

職 名	業 務 内 容	応 募 資 格
免疫部第四室任期付 研究員 (若手育成型クラ ス) (募集人数1名) 任期:採用予定日よ り2年 ※ 任期付研究員と しての再任はありま せん。 ※ 任期満了後に任 期の定めのない官職 の公募に応募するこ とは差し支えありま せん。	免疫部は、感染症そのほかの特定疾病(ヒ ト免疫不全ウイルスその他のレトロウイルス に起因する感染症を除く。)に関し、次に掲げ る事務をつかさどる。 1. 病原及び病因の検索並びに予防及び治療 の方法の免疫学的研究(これらに関するレ ファレンス業務を含む。)及び講習を行うこ と。 2. 予防衛生に関する免疫学的調査及び研究 (これらに関するレファレンス業務を含 む。)を行うこと。 3. 予防、治療及び診断に関する生物学的製 剤の生物学的検査及び検定(エンドトキシ ン試験に係る部分に限る。)並びにこれらに 必要な科学的調査及び研究を行うこと。 4. 予防、治療及び診断に関する生物学的製 剤(抗毒素製剤に限る。)の生物学的検査、 検定及び試験的製造並びにこれらの医薬品 の生物学的検査及び検定に必要な標準品の 製造並びにこれらに必要な科学的調査及び 研究を行うこと(他部の所掌に属するもの を除く。) 第四室においては、免疫部の所掌事務の うち、感染症の治療の方法の免疫学的研究 を行うことをつかさどる。 うち採用予定官職では、次の業務を行う。 1. 防御抗体の評価系構築に関する研究 2. ワクチンの免疫学的有効性に関する研究	1. 感染症と抗体評価系に関する 研究(オルガノイド培養研究 等)に関連した経験と実績を有 すること 2. ワクチン有効性評価に関する 知識と研究意欲を有すること 3. 海外機関との共同研究に必要 な語学力を有すること 4. 大学院博士課程修了後概ね4 年以内の学位(博士)取得者、 もしくは同等と認められる者 上記1から4を満たすこと

2. 提出書類

- (1) 履歴書（市販用紙使用、高等学校卒業以降を記入し、写真を貼付。）
- (2) 主要研究概要（1,200字以内）
- (3) 応募職の業務内容に関する抱負（1,000字以内）
- (4) 業績目録（A4版縦 横書き、別紙参照）
- (5) 論文別刷（1編以上）
- (6) 学位記（写し）又は学位を証明するもの（A4に縮小すること）

3. 書類提出先及び提出方法

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所 所長 宛て

※ 応募書類の封筒に、「免疫部第四室任期付研究員応募」と朱書きの上、所長宛て親展として書留にて郵送してください。なお、提出された書類は返却いたしません。

4. 応募締切日 平成30年5月1日（火）必着

5. 採用予定日 平成30年7月1日（予定）

6. 任期 採用予定日より2年

※1 任期付研究員としての再任はありません。

※2 任期満了後に任期の定めのない官職の公募に応募することは差し支えありません。

※3 一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律第3条第1項第2号によって国立の試験研究機関に任期付研究員として採用されたことのある方は応募できません。

7. 処遇

(1) 給与は、「一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律（平成9年6月4日法律第65号）」等に基づき、知識経験等を勘案して決定します。

(2) 1週間当たりの勤務時間は、38時間45分（週休2日制）です。

(3) 年20日の年次休暇（採用の年は、採用の時期により20日より少ない日数となります。）のほか、特別休暇（夏季・結婚・忌引・ボランティア等）、病気休暇の制度が整備されています。

8. 選考採用試験スケジュール

(1) 第1次審査（書類選考） 平成30年5月 8日（予定）

(2) 第2次審査（面接試験） 平成30年5月15日（予定）

※ 第1次審査（書類選考）を通過された方には、当方から第2次審査（面接試験）に関する連絡をいたします。

9. 勤務地 国立感染症研究所戸山庁舎 東京都新宿区戸山1-23-1

10. 問い合わせ先

国立感染症研究所 総務部総務課人事係 安藤・山口

03-4582-2625 E-mail:jinji@nih.go.jp

11. 国立感染症研究所ホームページURL

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

業績目録

氏名 _____

1. 著書

2. 学術論文（学会誌発表等）

（1）欧文

（2）邦文

3. 学会発表（講演・発表等）

4. 外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近5年）

（記入上の注意事項（共通））

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名（発表雑誌名）の順で記載し、それぞれを改行すること。

2. 年代の新しいものから順に記載すること。

3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。

（例：Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002）

4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に（ ）書で和訳を記載すること。

5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。（単独は（単）、筆頭は（筆）、その他は（他））

※コレスポンディングオーサー（責任著者）の論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入すること。

6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。

7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

①労働太郎、厚生太郎

(他炎症の組織病態

〇〇社, PP.67-87, 1989)

2. 学術論文

(1) 欧文

①Taro kousei、Jiro Kousei、Saburou Kousei、Tarou Roudou、Jiro Roudou、Saburou Roudou

(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA , 2002

(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)

Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎

(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004

(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)

Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

①厚生太郎

(単) ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について

第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

①厚生労働省科学研究費補助金、(課題名) 〇〇〇〇〇〇

期間: 平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年

②科学研究費補助金、(課題名) □□□□□

期間: 平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年